

森

の通信



●●● 自然と歴史の大発見 ●●●

宮崎県総合博物館

Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History

発行日/2011年12月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
<http://www.miyazaki-archive.jp/museum/> E-mail:hakubutsukan@pref.miyazaki.lg.jp FAX(0985)24-2199

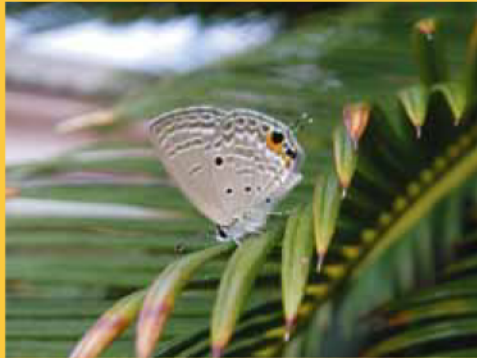
来て、見て、わかる! 県央調査展

～ 自然と歴史の再発見 ～

平成19年度から22年度にかけて、県央地域の動物・植物・地質・考古・歴史・民俗の6部門について、調査・研究をしてきた成果を資料や写真パネルなどで展示紹介します。



地質：ハシナガソデガイ化石



動物：クロマダラソデツシジミ



植物：ツクシイワシャジン

2012年

1/21 日(土) ～ 3/4 日(日)

休館日 毎週火曜日

会場 宮崎県総合博物館
特別展示室

主催 宮崎県総合博物館

観覧無料



歴史：紫裾濃大鎧



考古：宮崎平野で発見された旧石器



民俗：尾八重神楽

展示解説員の声



「民俗展示室のアユ漁について」

民俗展示室には、今では使われることの少なくなった生活の道具が、多数展示されています。その一つが、昭和三十年代に、北川町を流れる北川で行われていた、「アユのヒツカケ漁」の展示模型です。「アユカケブネ」に横たわる男性が、「スイガン」という水中眼鏡で川の中のをぞき込み、「ヒツカケ」という釣り竿の先の針で、アユを引っかけてとる様子を再現しています。展示室内をゆっくりと巡りながら、自然の中での人々の生活の営みに思いをはせてみませんか。（解説員 佐藤）

お知らせ

以下の期間は、常設展示室のメンテナンスのため臨時休館となります。

平成24年1月16日(月)～1月19日(木)

団体でのご利用の場合

団体でのご利用の場合には、事前に電話連絡をお願いします。

学校団体と一般団体では、「利用申込書」が異なります。詳細はホームページをご覧ください。

宮崎の昔話公演

囲炉裏を囲んでユーモアと臨場感にあふれた語りをお楽しみください。

公演日：2月18日(土) 3月17日(土)

時 間：13:30～14:20

場 所：民家園 椎葉の民家



春の民家園まつり

桜の花が咲いている民家園で野点、昔の遊び体験などいろいろな催しを行います。

日 時：3月17日(土)
10:00～15:00

これからの講座のご案内

2月12日(日)「化石のレプリカをつくろう」

化石のレプリカについて学習し、実物化石の型からの作成を体験します。

時 間：10:00～12:00

対 象：小・中・高・一般

定 員：25名

募集期間：1/15(日)～1/29(日)



3月10日(土)「弥生時代の宮崎」

宮崎の弥生時代について最近の研究の成果を学習します。

時 間：13:30～15:00

対 象：小・中・高・一般

定 員：50名

募集期間：2/11(土)～2/25(土)



平成24年

1月29日(日)「クジラの骨格を観察しよう」

館蔵のクジラの骨格標本を観察し、骨格のつくりを

学習します。

時 間：10:00～12:00

対 象：小・中・高・一般

定 員：25名

募集期間：1/1(日)～1/15(日)



2月18日(土)「宮崎の歴史を学ぶ」近世編2

関係資料を使いながら、近世の日向国の歴史を学習します。

時 間：10:30～12:00

対 象：中・高・一般

定 員：30名

募集期間：1/21(土)～2/4(土)



3月11日(日)「サンゴ化石観察会」

瓜田ダム周辺の遊歩道や沢でサンゴ化石を観察します。

時 間：10:00～12:00

対 象：小・中・高・一般

定 員：25名

募集期間：2/12(日)～2/26(日)



自然史展示室紹介

ティラノサウルス



ティラノサウルスは、白亜紀の終わりごろ（約7000～6500万年前）に生きていた最大級の肉食恐竜で、名前は「暴君トカゲ」という意味です。総合博物館に展示している標本は、アメリカのロツキー博物館にある化石（標本番号MOR555）の全身復元骨格で、全長が11mあります。大きく開くあごには抜けても生えかわる太い歯があり、獲物を骨ごとかみくだいていたと考えられています。ティラノサウルスの前足は体格の割に非常に小さく、はじめは別の恐竜のものではないかと考えられていました。前足は2本指で爪があり、起き上がる時などに使っていたようです。ほとんどの恐竜は絶滅してしまいましたが、じつは現在の地球にも恐竜の特徴を引き継いでいる生物がいます。それは鳥類です。ティラノサウルスなどの恐竜の骨格はトカゲやワニよりも鳥に近いのです。恐竜は絶滅していない、とも言うことができますね。（濱田）



キリシマミズキ

昨年、当館では福井市自然史博物館から約2,000点の押し葉標本をいただきました。これは、福井市自然史博物館が植物標本を整理したときに、重複していた標本をいただいたものです。日本海に面している北陸地方の福井市と、太平洋に面している宮崎県とは環境的にかなりの違いがあります。したがって、そこに生育している植物にも宮崎県とは違いがみられます。標本の中には、宮崎県には自生していない植物も見られ、とても貴重です。また、両地域に同一種の植物も見られ、比較検討するにはとても貴重な資料となります。

今回の資料紹介はこれらの中から「ヒュウガミズキ」という植物の押し葉標本を紹介します。この植物は、「ヒュウガ」という名がつきますが、宮崎県には生育していない植物です。県内には同じ仲間のキリシマミズキ（上写真）がえびの高原付近に見られます。（福松）



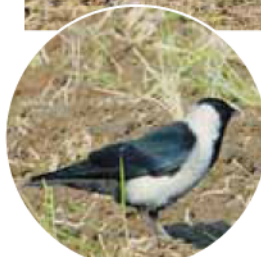
ヒュウガミズキ

収蔵資料紹介

ヒュウガミズキ



ミヤマガラスの群（コクマルガラスが混じる）



淡色型のコクマルガラス

いた？

「カラスの群れの中にパンダのような白黒柄のカラスが混じっています。普通のカラスですか。」という

問い合わせがありました。これはコクマルガラスの淡色型です。宮崎では10月頃から稲刈りの終わった田んぼで数百羽のカラスの群れが観察できるようになります。これはミヤマガラスの群れで、1年中見ることができるハシブトガラスやハシボソガラスと違い大陸から渡ってくる冬鳥です。これに少数混じって渡ってくるのがコクマルガラスで、カラスの中では最も小さく、ハトくらいの大きさです。「キョツ キョツ」と高い声で鳴きます。体の色はほかのカラスと同様に黒い色をしています。まれに写真のような首から腹にかけて白い個体（淡色型）が存在します。田んぼでカラスの群れを見つけたら「パンダガラス」を探してみてもいいかもしれません。（福島）

利用者からの問合せ

パンダのような白黒柄のカラスが



宮崎県教育委員会文化財課で埋蔵文化財の保護に携わっている堀田孝博さんを講師にお迎えして、9月18日(日)に博物館講座「西南戦争の考古学」を開催しました。西南戦争は明治10(1877)年に勃発した旧薩摩藩士を中心とした内乱ですが、私たちの宮崎県からも佐土原隊や延岡隊など旧藩の士族を中心に多くの人々が西郷軍に参加し、また、県内各地で西郷軍と政府軍の戦いが繰り広げられ、宮崎県に大きな傷跡を残しました。県内では都城、宮崎、佐土原、高鍋、美々津、延岡、可愛岳などで激しい戦闘が展開されましたが、山間部では、そ

のときの両軍の堡壘や塹壕など、激しい戦闘の跡が未だに残っています。講演では、文献の記載や豊富な実地調査の成果を基に、なぜ西南戦争を考古学の対象とするのか、どういった調査をするのか、何がわかったのかなどについて熱の入った話が展開されました。特に幕末の戊辰戦争の時と比較して銃が進歩したことによる陣地の变化、戦術の進化したこと、その背景にある世界情勢などは非常に興味深い論点でした。参加された58名の皆さんも熱心にメモをとりながら、話に聞き入っていました。(石川)

宮崎の歴史情報

カンカン部隊



民俗展示室の「海にくらす」のコーナーに、カンカン部隊の紹介をしているコーナーがあります。カンカン部隊とは、門川町にお住まいの女性が港で獲れる魚を行商するときに、カンカンと呼ばれるブリキの箱を背負っていたことから付けられた名称です。門川港の水揚げは漁獲量も多く、加工業も盛んでした。朝、駅には加工業者が加工品を渡すために待っていました。女性達は、市場で競り落とした魚と加工品を持って行商に出かけ、延岡や都城まで行く人もいました。駅にはリヤカーが置いてあり、そのリヤカーを引いてお客さんの家々を回りました。しかし、高齢化が進み、門川港で水揚げされる漁獲量も減ってしまい、現在ではカンカン部隊の姿を見ることはほとんどなくなりました。(小山)